

# 新潟県立長岡聾学校

## きこえ通信

令和6年度 第2号

<http://www.nagaokarou.nein.ed.jp/support.html>

当校 HP に  
も掲載中!

新潟県立長岡聾学校通級指導教室

〒940-0093 長岡市水道町2-1-13

TEL 0258-38-0210 (通級指導教室)

\*18:00までお願いします。メールもご活用ください。

FAX 0258-39-5665

e-mail [school@nagaokarou.nein.ed.jp](mailto:school@nagaokarou.nein.ed.jp)

発行：令和6年5月 担当 柳原

## 体育館、グラウンドなどでのきこえについて

新しい学校、新しい学年でドキドキした4月が終わりました。児童生徒の皆さんは、新しい環境に慣れたでしょうか。連休で、ゆっくり休んだりエネルギーを補ったりすることができたでしょうか。

5月になりました。小学校では5月から6月に運動会を行う学校が多いと思います。また中学校や高校では、大会などに向けて部活の練習が本格化する時期です。難聴のある児童生徒は、補聴器や人工内耳を装着しても、体育館やグラウンドで指示やスタートなどの合図がきこえにくいことがあります。

### きこえにくい例

話す人と自分の距離が遠い



周囲の騒音がある



音が響く



↓ 上記への支援例です。他の児童生徒にとってもわかりやすい支援もあります。

グラウンドや体育館で行う内容を教室で事前に確認する。ホワイトボード等を持参し、活用する。

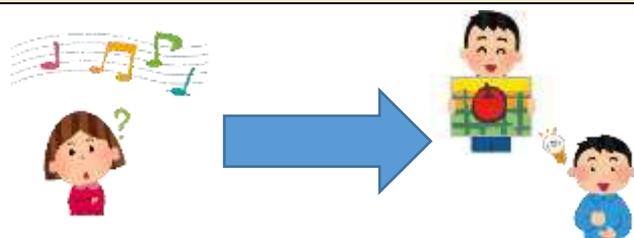


スタートなどの合図は、音だけでなく視覚的にわかる旗などを用いる。



屋外で急な降雨の場合は補聴器を外し、ポケットに入れてぬれないように! 湿気厳禁!!

難聴の児童生徒が不利にならないような、ルールや視覚情報を工夫する。



補聴援助システム(ロジャー等)が必要な場合は使用する。\*該当する児童生徒。屋外は話す人の近くだと効果がある。

ロジャー使用の有無に関わらず、話す人の近くに並ぶことも大切です。



全てこれと同じにする必要はありませんが、練習の様子や本人の希望などから、各学校の実情に合わせて支援をお願いいたします。「きこえにくいのでこうしてほしい」と自分から伝える力を育てることも大切です。

## ～難聴体験からわかること～



リザック HP より↓

前回の通信で少しお伝えした、難聴体験について書いてみます。  
目を閉じると真っ暗になって何も見えなくなりますが、自分で耳を塞いでも多少の音や話し声は聞こえます。このように、「きこえにくい」状態は実感しにくいと言えます。先生方向けの研修会や生徒さん向けの理解授業では、当校で持っている「イヤーマフ」を使用して、難聴体験をしてもらっています。「イヤーマフ」を使用して、どのくらいきこえにくくなるかという、きこえに問題がなく、聴力が0dB程度の人なら25dB(右図参照)程度となります。

実際に体験してもらい、次のような感想をいただきました。  
「周りの人が話しているのにききとれず、孤独を感じた」  
「思った以上にきこえにくい」  
「ききとろうとすると、ものすごくエネルギーを使う」  
「耳は偉大だと思った」  
「きこえにくい人の気持ちがよく分かった」

中学生に体験してもらったところ、「大勢で一斉に話す方が、一人ずつ話すよりもききとりやすい」との感想がありました。もしかしたら、大勢で話すと、それにつられて大声で話すためかもしれません。ききとりやすい声の大きさや、雑音を減らす工夫(椅子にテニスボールを着けるなど)を、考えることが必要だと思います。



## ～LiD(聞き取り困難) / APD(聴覚情報処理障害)について～

この3月に、「LiD(聞き取り困難症) / APD(聴覚情報処理障害)の診断と支援の手引き」が発表されました。

<https://apd.amed365.jp/doc/202403-seika.pdf>

難聴も理解してもらいにくいですが、LiD(聞き取り困難) / APD(聴覚情報処理障害)は「聴力検査では正常値でも言葉の聞き取りが難しい」、という状態であるため、一層理解してもらいにくいと言えます。約20年くらい前からこのような訴えのある方が現れ始め、約10年くらい前から書籍や研究成果などが発表され始めたようです。

LiD(聞き取り困難症) / APD(聴覚情報処理障害)について、昨年度のきこえ通信でも紹介しました。Webサイトなどの情報によると、約240万人いるのではないかとのことです。TVでも放送されました。1つめは昨年12月にNHKで特集されたことです。当事者の方のお話が多くを占めました。2つめはこの4月に始まったドラマです。その回では証人がAPDであるとわかり、裁判の場面で大きな展開となりました。どちらも「困り感が理解されにくく、辛い思いをした」という内容が語られていました。

LiD(聞き取り困難症) / APD(聴覚情報処理障害)のある方は、特に雑音が多い所での聞き取りが難しいとの訴えがあります。上記「～診断と支援の手引き」によると、静かな環境を整えるだけでなく、ノイズキャンセリングイヤホンの使用が有効との情報を記載しています。

折しも、合理的配慮の提供が公的機関だけでなく、企業等も義務化されたタイミングです。必要な支援について、相談してほしいと思います。当校もお手伝いできます。

長岡聾学校はきこえについて地域支援のセンター的機能をもつ学校です。きこえにくさの相談や支援方法の紹介なども行っておりますので、LiD/APDに限らず、きこえにくさがある児童生徒がいましたら、ご連絡ください。

